

学校でできる 「ふくし」に気づく時間に。

福祉とは、どんな意味を持つのでしょうか？

私たちが考える福祉は「ふだんの暮らしをシェアにする」ということです。

福祉とは、高齢の方、障がいのある方、困っている人のためだけにあるではありません。学校で過ごす子どもたちにも全ての人にとって必要なものです。

中学校で過ごす3年間は本当にあつという間です。

しかし、その3年間の体験がこれからの人生にとって大きな影響を与えます。

だからこそ、私たちはちがいを知り、認め合うことの大切さを知ってほしいと思っています。そして、「助けて」と言えない「人に頼っていいのかわからない」そんな子どもたちが自分の持って生まれた特性や環境に関わらず、自分を含めた全ての人が、「誰かを助けること」「誰かに助けられること」が当たり前であることに気づき、「ともに生きる」ことを考える時間にもしてほしいと思います。

私たちが考えるプログラムのテーマは、「知る」「考える」「出会う」です。

複数回の授業を通し、知った瞬間で終わらず、日常の行動の変化に繋げていくことが今回の大きな狙いです。

福祉を体験するプログラムを通じて、みんながシェアに過ごすための行動を考えるきっかけになれば幸いです。

実施の流れ

～授業依頼の申し込み受付は2024年9月30日までとさせていただきます。～

① 学校からNPO法人み・らいず2への依頼書の送信

福祉教育プログラム訪問授業実施依頼書 (WEBフォーム) に必要事項を記入の上、送信ください。

【提出期限】

2024年9月30日23時59分までにフォームにてご提出ください。

期限を超えてからのご相談はお問い合わせください。

※実施は先着順となっており、年度末のご依頼はお受けできない場合がございます。

Webフォーム



② NPO法人み・らいず2・関係団体、ご依頼元の学校との日程調整

提出いただいた依頼書をもとに、訪問授業に関しての打ち合わせを行います。事前にヒアリングを行い、適切な形でプログラムの提案を行います。

③ 授業の実施

事前打ち合わせの内容をもとに、授業を実施します。

※授業には大阪市福祉局の担当者が同席する場合があります。

④ アンケートの実施・共有

生徒向けアンケートを NPO 法人み・らいず2から学校へお送りしますので、授業実施後にご協力をお願いいたします。記入いただいたアンケートは NPO 法人み・らいず2宛に、下記の方法で共有をお願いします。

【アンケート共有方法】

以下のいずれかの方法で共有をお願いします。

メールでの共有：fukushiru@me-rise.com まで、スキャンしたアンケートをご送信してください。

郵送での共有：〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-3-1-4F-106 までお送りください。

運営・お問い合わせ

NPO法人み・らいず2 福祉教育事業「フクシル」
担当：宮武・岩本
〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田1-3-1-4F-106

TEL 05053578567

MAIL fukushiru@me-rise.com

https://www.fukushiedu.info

WEB SITE



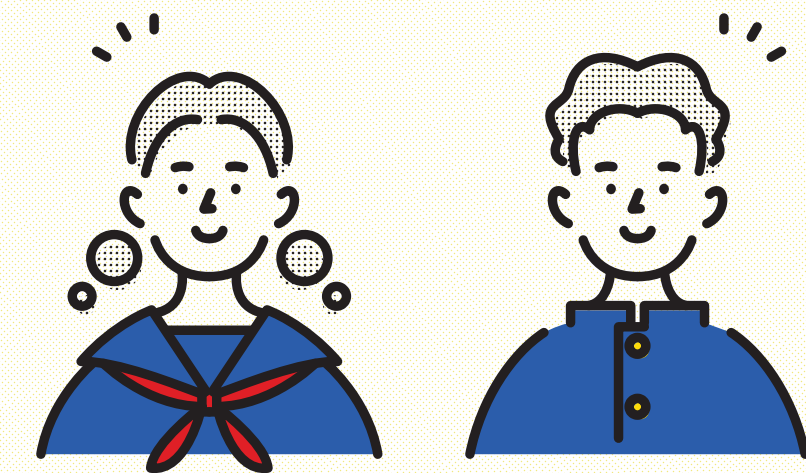
※本事業は、大阪市委託事業「中学校における福祉教育プログラム」の一環で、NPO法人み・らいず2が主体で実施しています。

実施
無料

福祉を身近に感じる授業 福祉教育プログラム

フクシル!

みんなが
シェアに
過ごすための
行動を考える



<https://www.fukushiedu.info>

中学校の総合学習などの時間で福祉教育を考えている先生方へ

学校のご要望に応じて、授業内容や回数 は柔軟に対応できます。

また、現場体験プログラムや教員向けの研修も実施できますので、お気軽にお問い合わせください

CASE1 ～ひとりひとりの違いをしる授業～



授業の狙い・概要

生活するなかで出会うさまざまな人々の違いについて、当法人職員やゲストからの講話等を通して伝える授業です。特別な「誰か」の話をするのではなく、中学生自身も含めた社会の中で生活する人について知ることを重視する授業です。

タイムライン例

- 自己紹介・お互いの価値観を知るグループワーク (20分)
- 講師による講話 (60分)
- 感想の共有・質疑応答 (20分)

実施プログラムテーマ例

発達凸凹を知る・車椅子利用者の世界を知る～バラスポーツ体験～・高齢者の方の気持ちを知る・LGBTQについて知る・・・など、実施予定の学校と相談を行ったプログラムを提供します。

CASE2 ～明日からのアクションを考える授業～



授業の狙い・概要

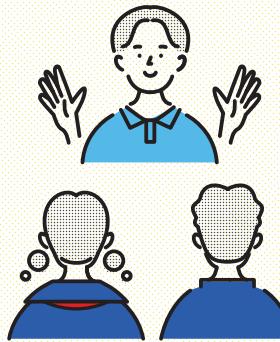
「助けられること」「助けること」を日常に置き換えて考えるグループワークを実施します。聞いて終わりの授業にならないことを狙いとし、友人や学校の知り合いを思い浮かべ、その人のために何ができるかを考え計画を立てる時間を作ります。

タイムライン例

- 一人ひとりの違いを知る授業の振り返り (15分)
- ワークシートを用いて、クラス内でできることを考える (20分)
- クラス内での発表・先生からのコメントバック (15分)

※学年や学校によってグループワークの進み方にも大きく差が出てしまうため、個人で考えるのか、グループ内で話し合うのか、発表の機会を設けるのかなどは打ち合わせを行います。

CASE3 ～福祉現場で活動する大学生との語りの授業～



授業の狙い・概要

福祉現場で活動する大学生と、介護のことや障がいのことなどを語り合う授業です。大学生が福祉現場で感じたリアルな話を聞いて、福祉をもっと身近に感じてもらえるようになる授業を行います。

タイムライン例

- 自己紹介 (10分)
- グループに分かれて大学生の語り (30分)
- 振り返り (10分)

知る

一人ひとりのちがいを学ぶ授業

スタッフが訪問し、どんな人にもある発達の凸凹についての具体的な事例やワークショップを行いました。特別な「誰か」の話にするのではなく、中学生自身も含めた社会の中で生活する人について知ることを重視し、違いがあってもそれが当たり前だということ、助け合うことの大切さについて学ぶことが狙いです。



プログラム例 (100分2コマ)

1. ちがいを知る「大事なもののゲーム」(40分)
2. 「障がい」ってなんだろう？(10分)
3. 特性の凸凹による見え方や聞こえ方を体験しよう (30分)
4. 振り返り、まとめ (20分)

授業のねらい

- 一人一人がお互いを認め合えるようになってほしい
- 誰しもが「助ける」「助けられる」ことが当たり前なことに気づいてほしい
- 発達障がいや発達の凸凹について伝えたい

考える

明日からのアクションを考える授業

「助けられること」「助けること」を日常に置き換えて考えるグループワークを実施しました。聞いて終わりの授業にならないことを狙いとし、顔が浮かぶ友人や学校の知り合いを思い浮かべ、その人のために何ができるかを考え計画を立てる時間を作りました。



プログラム例 (50分1コマ)

1. 一人ひとりの違いを知る授業の振り返り (10分)
2. ワークシートを用いて、クラス内でできることを考える (20分)
3. クラス内での発表・先生からのコメントバック (20分)

授業のねらい

- 福祉課題を知って終わるのではなく、日常でできることを考えてほしい
- 自分事として考えることで行動変容を促したい

出会う

多様な違いのある当事者の授業

実際に障がいのある当事者の方をゲストに招きます。違いや当たり前、普通とは何かについて、対話をしながら学んでいきました。

プログラム例 (100分2コマ)

1. オリエンテーション (10分)
2. バラスポーツのデモンストレーション (65分)
3. 障がいに関する講話 (10分)
4. 振り返り、まとめ (15分)

ゲスト：大内秀之氏 大学卒業後、高齢者施設、民間企業を経て2012年社会福祉法人堺市社会福祉事業団に就職。現在、堺市立健康福祉プラザ市民交流センターに配属され、障がい者アートの企画運営をおこなっている。車いすバスケットボール選手、パラクライミング選手であり、障がいのある方ない方がスポーツを通じて互いが理解し合う社会の実現を目指している。

授業のねらい

- 社会的マイノリティの当事者のリアルに触れてみたい
- 障がいに対するネガティブなイメージを変えたい

福祉現場で活動する大学生との対話の授業

福祉現場で活動する大学生と、福祉のことを語り合います。大学生が福祉現場で感じたリアルな話を聞いて、福祉をもっと身近に感じてもらえるようになる授業です。年齢・価値観がより近い存在からの話を聞くことで、等身大の福祉を学んでいきました。

プログラム例 (50分1コマ)

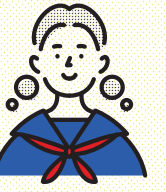
1. 導入(福祉や障がいの基本的なことを理解する)(10分)
2. 大学生との語り合い... 小グループに分かれて、福祉や障がいについて大学生と語り合い、理解を深める(30分)
3. まとめ(感じたことや自分にできることを考える)(10分)

授業のねらい

- 大学生と対話をしながら、将来のイメージを膨らませたい
- ボランティアなどの福祉活動に興味を持って欲しい



生徒の声



- ・今まではテレビなどで「福祉」と聞いても何も思わなかったけど、見方が変わった。
- ・世界には色々な人がいるからその人たちを受け入れる事が大切な事。
- ・自分が思っていた福祉のイメージはほんの一部なんだと思いました。また、福祉はみんなの生きるを支えるのだと思いました。
- ・しんどいものだと思っていたけど、皆が楽しそうにしている良いなと思った。
- ・ふだんのくらしをしあわせに。
- ・人は自分が思っているだけでできていないことが多いことがわかりました。
- ・今活動している人の話を聞いたら、そんな大変ではなく、むしろみなさん楽しそうなんだと思いました。
- ・福祉は介護だけではないことや、学校に来てくれた福祉に関する仕事や、大学生が若くてたくさんいたことにビックリしました。
- ・福祉は介護だけでなく、みんなの生活をよくするためのこと。
- ・一人一人が輝ける世界にしたい。

教員の声



- ・年齢の近い世代の若者の語りは、普段生徒に接している教員の話とはまた違った刺激があったように思う。これをきっかけに普段の生徒の生活を生徒自身が振り返ってほしい。
- ・福祉やボランティアをより身近に感じるという点で、すごく効果的な授業だったと思う。
- ・それぞれが助け合うことの大切さを、学生さんの経験から改めて学ばせていただいた。
- ・アットホームな雰囲気、親しみやすい空気で話をしてくれ、生徒たちもすごく関心をもっていった。
- ・価値観の近い大学生からの語りに、生徒が目キラキラさせていたのが印象的でした。
- ・生徒が「福祉」にもですが、「大学」にも関心を強く持っていました。